



粘り強く考える

校長 水野 裕司

「算数ドリルを宿題に出したら、ステップ1は、教科書で学習したパターンの問題で、よくできていたのに、ステップ2で、少し形が変わったら半数近くが正解できず、ノートが完全な白紙だった児童も数人いました。どうしたらいいでしょう。」ある日の担任からの相談です。

できなかった原因を一緒に考えました。

- ① 習っていないから分からない、とすぐに諦めてしまった。(粘り強さ)
- ② 解き方は分かったが、立式や計算で間違えてしまった。(基礎・基本)
- ③ ステップ1で使った方法の応用の仕方に気付けなかった。(思考力)

話をしているうちに、同じ「正解できない」でも、児童一人一人に様々な原因があるのではないかということに整理されました。しかし、更に考えると、ステップ1で、2つの直方体に分けて計算し、それを合計するという過程ができていたのに、ステップ2ができないとなると、主な原因は①の「粘り強さ」なのではないか、ということに落ち着きました。

・「2つに分ければできたのだから、分ける線を工夫できないだろうか。」「3つに分けたらどうだろうか。」と、図とにらめっこをしながらじっくり考える粘り強さ。

・分けた直方体の縦、横、高さの長さを一つ一つ丁寧に確認する粘り強さ。

・計算の回数が増えても最後まで集中してやり切る粘り強さ。

そして、「これらの粘り強さが子供たちに身に付くよう、朝学習を有効に使用して、粘り強く指導していきます。」と、担任も静かに闘志を燃やしていました。

アクティブラーニングという言葉が一時期盛んに使われていました。しかし、児童がたくさん動いて活動していればよいという誤解が多く、現在の学習指導要領では、日本語で、「主体的・対話的で深い学び」と言い換えられています。その中の、「主体的な学び」について、学習指導要領の解説には、『学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」』と示されています。激しく変化し、先の見通せない時代を生きる子供たちにとって、主体的に学ぶ姿勢を身に付けることは、大変重要なことです。本校では、上に示されている中でも特に、「粘り強く課題に取り組む力」を高めていきたいと考えています。

さて、今月は、連休が明けると運動会の練習が本格的に始まります。運動会への取組を通して、子供たちが、「自分の目標に粘り強く取り組み、達成できた。」という経験を積めるよう、指導してまいります。まだ、暑さに体が慣れていない中での毎日の練習となります。学校では、水分のこまめな補給、教室を涼しく保つなど熱中症対策をしながら安全に指導を進めてまいります。(塩分の補充につきましては、朝食と給食をしっかり摂れば、運動会の練習での発汗には十分と考えています。)ご家庭におかれましても、十分な睡眠・休養と栄養満点の食事でお子さんの頑張りを応援していただきたくお願いをします。寝不足、エネルギー不足では、粘り強く頑張ることはできません。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

